

# 甲南病院瓦版

## 大腸癌



外科  
神谷 純広 医師

大腸癌は2018年の全国の癌の統計で女性の死亡数第1位、男性の3位となるまだまだ気を付けないといけない悪性疾患です。

当院で2020年の直腸を含む大腸癌の手術症例は19例でした。そのうち3例が受診時に腸閉塞の状態になっていて経肛門的イレウス管を留置して減圧した後手術をしています。それ以外も大部分が進行癌です。

19例中6例が下血、4例が腹痛を主訴として受診し検査を受けて大腸癌の診断を受けています。7例は当院又は他院で通院中に貧血を指摘され検査を受けることになり大腸癌の診断となりました。下血については数か月症状があつてから受診している症例もあります。その前年も、何か月も前から下血を認めたが、なかなか受診せず腹痛や便秘で受診し進行した状態で見つかった症例が3例ほどありました。貧血の症状についても本人の希望もあり数か月以上経過してから内視鏡などの検査を行われていることが多いようです。かなり進行した状態で見つかると、肺転移、肝転移や再発の可能性が高いだけでなく縫合不全などの合併症の可能性も高くなります。早く見つけるためにも下血などの所見を認めたら内視鏡などの検査を行うことをお勧めします。

2021年2月1日記